

ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成 (インテンシブコース)

養成目標

- 従来、ゲノムは胚細胞変異、遺伝性疾患を取り扱うものとされていた。しかし、遺伝子解析技術の目覚ましい進化とともに、胚細胞変異・体細胞変異の境界が曖昧なものとなってきた。がん診療においても遺伝性腫瘍以外の腫瘍においてもゲノム情報が重要な役割を担うようになってきている。つまり、がん診療全てにおいて、ゲノム情報を活用することが必須となってきているが、担当できる人材が少ないのが現状である。このため、(1)臨床遺伝学を理解し、(2)ここの患者に対する診療計画を立案でき、(3)ゲノム検査結果を正しく解釈し、(4)正しい診断ができ、(5)治療へ活用できるかを判断し実践でき、また(6)二次的所見など起こりうる倫理的問題を解決できる人材が必要である。診療現場に必要なのは、座学だけでなく、実地診療の中でon the job trainingにより育成された人材であると思われる。

コースの特徴

- 三重大学医学部附属病院は、2005年にオーダーメイド医療部を新設し、ゲノム情報を活用した個別化医療の推進に努めてきた。毎年200-300件の遺伝学的検査を実施し、必要であれば遺伝カウンセリングを提供してきた。このように、検査前、後のフォローアップをシームレスに提供できる体制を構築している。最近、病院検査室内でNGSを用いたがんゲノム解析をも開始し、がんゲノム医療を検査、診断から治療、カウンセリングまでシームレスに実施できる体制を構築し、一貫した人材育成が可能となっている。

対象者・修業年限

- がん診療に携わる医師・2年